

元日本女子プロゴルフ協会会長 樋口久子



樋口 久子(ひぐち ひさこ、1945年10月13日 -)は、埼玉県川越市出身の女子プロゴルファー。元日本女子プロゴルフ協会会長。優勝回数72回は日本歴代女子最多。中学校時代までは陸上競技選手だったが、二階堂高等学校時代に実姉が勤務していた東急砧ゴルフ場で中村寅吉を知り、ゴルフへの関心を深める。卒業後中村に弟子入りし、川越カントリークラブで練習場のスタッフとして勤務する傍らプロ選手としての下積み生活を経験。1967年に第1期女子プロテストに合格した。その翌年、日本女子プロゴルフ選手権大会、TBS女子オープン選手権(現・日本女子オープンゴルフ選手権競技)の2大メジャーを連覇。以後1970~80年代にかけてこれら2冠を独占するなど日本女子プロゴルフの先駆者としての地位を築く。更に1977年には全米女子プロゴルフ選手権に日本人として初優勝。世界ゴルフ殿堂の会員に登録される。1996年日本女子プロゴルフ協会(JLPGA)会長になり14年つとめ、2011年に退任。

中学時代は陸上部でハイジャンプをしていた。高校1年の終わりごろ姉が勤めていた砧ゴルフ場に遊びに行き、中村寅吉先生を知りゴルフを初めた。世田谷にある女子高卒業時にはプロをめざすことを決め中村さんに弟子入りした。当時、中村さんは川越カントリークラブの社長をしていて川越カントリークラブの練習場勤務で川越に戻った。環境の良い職場で中村先生のキャディをしたこともある。プラスの経験だった。ゴルフを始めた時、日本一になる目標をもって努力をした。

両親はスポーツとは関係なかった。父母は明治生まれ。父は柔道をやっていて怖かった。母からは色々なことを教えてもらった。「腹をたてたら損よ!」「天狗になるな!」父は53歳で脳溢血で亡くなった。いつも母は心のよりどころだった・・・「勝ちたい気持ちを抑え、一日無事に過ごせるように祈りなさい!」が母の口癖だった。

中村先生にはしかられたことは一度もなかった。練習をしろと言われることがない位練習をした。昔は一人のキャディが2、3人のプレーヤーを見ていた。1970年代(昭和45年代)米国では一人のキャディが一人のプレーヤーを見ていた。1967年に女子プロゴルフ協会ができプロテストに合格。その翌年、日本女子プロゴルフ選手権大会、TBS女子オープン選手権(現・日本女子オープンゴルフ選手権競技)の2大メジャーを連覇。以後1970~80年代にかけてこれら2冠を独占するなど勝つのが当たり前で負担があった。ゴルフは不安と自信が同居するスポーツ。だから練習を繰り返すのです。1mのパーは短いので入れなければ・・・の気持ちがありプレッシャーが強い。2mのパーは思い切り打てる。国内では69勝をしている。不動さんは50勝。30勝をすると永久シード権が与えられ、現在自分を含めて六人いる。

1977年、32歳の時、全米女子プロゴルフ選手権に日本人として初優勝。佐々木まささんと二人でアメリカアーに、10年に渡って挑戦した。日本で試合の無い3ヶ月間、米国で10試合戦っていた。佐々木さんと二人で通訳を雇い、全米各地を巡業していた。たまにはホテルでご飯を炊いたり、うどんをゆでて薬味をいれて食べたりしていた。米国での練習環境はよく飽きなかった。ある時を過ぎると練習も楽しくなる。150m先を狙うにしても、ストレート・フック・スライスと色々練習した。

ゴルフは始めてから10年がひとつのメド。2003年にゴルフの殿堂入りをした。アジア、日本では初めてであった。現在、4人の日本人が殿堂入りしている(岡本綾子、青木功、ジャンボ尾崎)。米国で優勝した時、ロス在住の特派員がいて、写真を撮ってくれた。羽田に戻った時、凄い数の人が出迎えてくれて驚いた。記者の方々からは樋口さんはこわい、よりつきにくい...と言われていた。

若いときはゴルフに熱中していたが、一人では弱いので結婚したいと思った。米国ツアーの時、旦那が赤ちゃんを背負い奥さんのキャディをしている姿をみて、いいなあ!と思った。子供を生んでもゴルフが出来るんだ!ご主人の理解が必要だが・・・

42歳の時に子供(娘)を授かった。あの時は最後のチャンスだと思った。2年間はゴルフをしなかった。出産後、2度優勝をした。出張先からしょっちゅう電話をしていた。今、娘は24歳になった。娘はゴルフが嫌いだった(母親が家にいないから)が最近、すこしづつ好きになってきた。

昨年14年やってきた日本女子プロゴルフ協会会長を退任。始めのころ、スポンサーは費用対効果比を考えるので視聴率など数字に気を払った。女子のゴルフ人口を増やす目的でキッズゴルフをはじめ子供達に一日中、ゴルフ場で遊んでもらった。14年で4000人位の子供が参加。その中から現在の女子プロが何人もでてくる。協会内部の改革ではトーナメント部門とインストラクター(指導)部門に分けた。トーナメント部門では1年間8試合に出られ、勝者は翌年の試合参加可。宮里アイさんたちがでてきて女子プロが賑やかになってきた。沖縄や九州出身者が活躍している。九州では坂田塾出身者が多い。最近、韓国・中国が強いが全体のレベルが上がってくるので長い眼で見るといいことだと思う。韓国はバックアップがいい。一握りのナショナルチームに入るまでは親が投資、子供達は親を楽にしてあげたい!の気持ちで頑張る。ナショナルチームに入ると年間200日ゴルフ漬け。全て国の費用負担。

今後はオリンピック招致委員としての活動がある。次のオリンピックからゴルフが正式種目になる。14年間は忙しく、週一ゴルファーだった。死ぬまでゴルフはやめない、こつこつ努力するのが好きだから!